

大豆特報

魚津市
魚津市農業技術者協議会

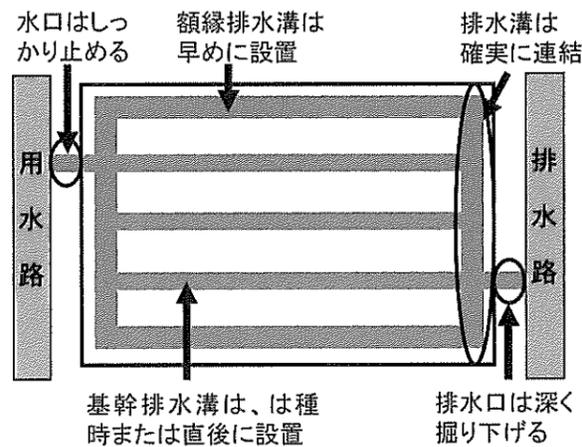
大豆栽培は、排水対策と土づくりが大変重要です。は種前のほ場準備をしっかりと行いましょう。

また、耕起、は種などの一連の作業は土壌がよく乾いた状態で行い、出芽・苗立ちを促すとともに、苗立ち本数の確保を図りましょう。

麦跡大豆は大麦収穫後、直ちには種できるよう計画的に作業を進めましょう。

1 排水対策

- (1) 耕起前に、溝幅 30cm、深さ 25cm 以上の額縁排水溝を設置し、深く掘り下げた排水口と連結する。
- (2) は種時にできた溝は、排水溝に確実に連結させる。
- (3) は種後も排水溝の点検・手直しを行い、排水を徹底する。



2 土壌改良・施肥

(1) 土壌改良剤

pH6.0~6.5を目標に、石灰質資材を耕起前に施用しましょう。

| 資材名 | 10aあたり施用量 |
|------|-----------|
| 苦土石灰 | 100kg |

(2) 有機物

地力低下を防ぐため、発酵鶏ふんやたい肥を散布しましょう。

| 資材名 | 10aあたり散布量 |
|--------|-----------|
| 発酵鶏ふん | 150~200kg |
| 牛ふんたい肥 | 1~2t |

(3) 基肥

土壌条件に応じて、適正な量を施用しましょう。

| 肥料名 | 10aあたり施肥量 | 備考 |
|---------|-----------|--------------------|
| BB基肥084 | 20kg | ※麦跡は10aあたり施肥量を増やす。 |

本年は春先のネキリムシ類の誘殺数が平年よりかなり多くなっています。早期発見や防除を徹底しましょう。

3 種子消毒

| 薬剤名 | 使用方法 | 使用量 | 対象害虫 | 備考 |
|-----------|------|------------|---|---------------|
| クルーザーMAXX | 塗沫処理 | 40ml/種子5kg | アブラムシ類、ネキリムシ類、タネバエ、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病、黒根腐病など | 薬剤は青色処理後は風乾する |

4 は種

(1) は種様式やは種時期並びに品種や粒径に応じたは種量を確認して、適正な栽植本数を確保しましょう。

| 品 種 | は種時期 | 10aあたり栽植本数 | 10aあたりは種量の目安 |
|---------|------|----------------|--------------|
| えんれいのそら | 6月上旬 | 14,000~16,000本 | 5.3~6.0kg |
| | 6月中旬 | 16,000~18,000本 | 6.0~6.8kg |
| シュウレイ | 6月上旬 | 12,000~15,000本 | 4.9~6.1kg |
| | 6月中旬 | 15,000~18,000本 | 6.1~7.4kg |

* 苗立ち率 90%として計算

* 百粒重(大粒): 「えんれいのそら」34.0g、「シュウレイ」36.9g

(2) 耕起作業は、作土深2.0cmを目標に行いましょう。碎土率60%以上を確保するため、トラクタの作業速度、ロータリの回転数を調整して作業しましょう。

また、摩耗した耕うん爪は交換しましょう。

(3) は種深度は3cmを目安とします。浅いと水分不足に、深いと茎疫病により、出芽・苗立ちが悪くなります。

5 雑草防除

除草剤は、は種・覆土後、雑草の発生前に均一に表面散布しましょう。

| 除草剤名 | 使用時期 | 10aあたり使用量 | 10aあたり希釈水量 |
|-----------|-------------------|-----------|------------|
| ラクサー乳剤 | は種後出芽前 (雑草発生前) | 500ml | 100ℓ |
| プロールプラス乳剤 | | 500ml | 100ℓ |

注) (1) 散布直後に多量の降雨が予想される場合は、降雨後に散布しましょう。

(2) 隣接ほ場や作物に飛散すると薬害が生じるので、注意して散布しましょう。

(3) プロールプラス乳剤は「砂土」での使用を控えてください。